

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 飛騨牛戦略推進強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内 2878)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 29,141 千円 (前年度予算額：38,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	38,000	18,273	0	0	0	0	0	0	19,727
要求額	29,141	1,174	0	0	0	0	0	0	27,967
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

飛騨牛は、「全国和牛能力共進会」(和牛の改良技術を競う全国大会で5年に一度開催)において、過去2度、最優秀枝肉賞を獲得したが、平成29年9月の宮城大会では選外となった。

そこで、次回(令和4年)の鹿児島大会に向け、知事を名誉会長とした「全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議」を設立し、宮城大会の検証と強豪県の取組を調査し策定した「和牛日本一奪還戦略」に基づき、飛騨牛関係者一丸となって推進していくこととした。

戦略では産肉能力*に優れた出品用の子牛を効率的かつ効果的に増産するため、①産肉能力トップクラスの母牛の選抜のための母牛の能力調査と、②子取りの手法、③出品候補牛の選抜について、科学的見地から取り組み、強豪県に対抗できる出品牛づくりを進めることとしている。

*産子の枝肉成績で推定

(2) 事業内容

戦略の①及び②については、令和元年度までに完了。

③について、出品牛の育種価調査と精度の高いエコー診断、血液検査により最も良い牛を選抜できる体制づくりをすすめる。具体的には、出品候補牛

のゲノム育種価測定を行う。加えて、母牛のオレイン酸能力の推定を継続して行うことで、出品候補牛の能力評価の精度向上を行う。また、選抜チームのエコー診断技術の向上と、出品牛の簡易ビタミンA検査を実施し、飼養管理のモニタリングを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10 (飛騨牛の改良は、県畜産研究所が主体となるため)

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	524	実験補助 (ゲノム採材、脂肪酸測定等)
旅費	654	出品対策チーム旅費等
需用費	17,890	ゲノム育種価解析用消耗品ほか
役務費	85	通信運搬費
委託料	9,900	遺伝子型 (SNP) 解析
使用料	88	ETC 使用料 (DNA 採材時等)
合計	29,141	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

全国和牛能力共進会鹿児島大会 (R4) に向けた和牛日本一 (最優秀枝肉賞) 奪還戦略

(2) 国・他県の状況

本県のように母牛の頭数が少ない鳥取県において、母牛全頭 (約 3000 頭) のゲノム育種価調査や、受精卵移植技術を用いた出品牛づくり、エコー診断技術を用いた出品牛の選抜を実施。

(3) 後年度の財政負担

母牛の能力調査については、次々回以降の大会も見据えて継続実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体は県 (畜産研究所、家畜保健衛生所) であるが、効率的、効果的かつ確実に期間内に実施するため、一部を専門性の高い団体等に委託する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - ① 次回（R4）の全国和牛能力共進会に向け、令和3年度は、出品候補牛選抜のためのゲノム解析精度向上に取り組む。
 - ② 本大会に向けて、候補者が24か月齢肥育の練習を実施する。それにあわせ、エコー診断技術の向上、飼養管理のモニタリングを実施する。
 - ③ 候補牛のモニタリング調査を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、次回大会に出品するための優秀な牛を出品する工程の一部につき、成果指標にはなじまない。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・全共出品対策委員会の開催
 - ・全共出品対策委員会各部会（種牛、肉牛、調整）の開催
 - ・候補牛のゲノム育種価調査の実施
 - ・飼養管理技術向上のための牛枝肉のオレイン酸測定の実施
 - ・エコー診断技術の向上、候補者の飼養管理技術向上の取組実施

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・令和2年10月にエリート子牛が出生。ゲノム育種価調査、子牛育成技術向上の取組を実施し、優良な肥育素牛の造成を行い、和牛日本一奪還を目指す。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	国内外を問わず、飛騨牛のブランド価値を高めていく上で、その品質を裏付ける実績が不可欠である。 本県は、和牛のオリンピックといわれる5年に一度の全国和牛能力共進会で、平成14年の岐阜大会以降、枝肉賞を獲得してきたが、29年の宮城大会では獲得を逃したことから、次の大会では再び獲得できるよう、より優秀な牛を高い確率で作出するために遺伝子や細胞レベルの科学技術も取り入れた対策が必要である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	「和牛日本一奪還戦略」の計画に従い、順調に進行している。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価)	県下各地域の肉用牛改良に携わる技術員や農家代表を会員とする出品対策委員会を通じて、生産者団体や県市町村、JAなど県域全体で取り組んでいる。また、生産部門、選抜部門に専門家が集まったチームを結成し、全国和牛能力共進会に取り組む体制を構築している。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 全国和牛能力共進会の候補牛が出生してくる。今後、飼養管理の指導、選抜技術の向上が求められる。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「飛騨牛」を肉のトップブランドとして維持していくためにも、全国和牛能力共進会に挑み続け、更なる改良を進めていくことが必要であり、まずは次回を見据えた戦略を推進していく。
